



藤井さんが使うのは水性で、乾くと水に溶けなくなる絵の具です

この工房の主は藤井冨登さん。20年ほど前に映画館の看板やテーマパークの壁画の制作などを手がける都内の大手会社から独立し、一時は一人で30館以上もの映画館の看板を手がけていた、匠の技を持つ方です。映画の上映期間は通常2週間。土曜日の封切りに合わせて、藤井さんが手がける看板は金曜日には映画館に納めなくてはなりません。いくつもの映画館の仕事を受けていた忙しい時期は、何日も徹夜をしながらの作業だった

「私が目指していたのは徹底的に技術を高めること。要は上手くなることです。そしてそれだけでなく、各館の需要に合わせて仕上げるられるようスピードも要求されます」と藤井さん。その言葉は、独立後に習得した、一人で何館もの映画館の看板を手がけながら仕事を絶やさぬように受注するための術でした。「上手くなること」を目指した藤井さん、会社に行ったところ先輩に、何度も、ものの姿に対する自分の固定観念を捨てなさいと言われたそうです。この言葉は本当に悩みました。誰もが、空は青い」という固定観念を持っていると思います

す。ここにも、仕事に妥協を許さぬ人柄が見受けられます。こんなふうに努力の人である藤井さんが求めるのは、映画は一つの物語だから、私が描くシーンでそれをきちんと伝えたいということ。映画のイメージを邪魔することなく、映画以上のものを伝えることを目指しているそうです。身近に目にする映画の看板を通して、現代の匠の想いを、その一枚の絵から感じ取ってみたいものです。



自分の固定観念でものを見ないこと そのものの質感をそのまま描くこと 1枚の絵で物語を表現することが大切

藤井冨登さん（映画の看板制作・壁画制作）

一瞬写真かと思ふほど精密な、どこか見覚えのある男性の顔と、その隣にはまだ描きかけの人物。ここは水野にある工房の一室です。霧を噴いて壁一面に張り付けた、新聞紙ほどの厚みの大きな大きな紙に、巧みな刷毛さばきで映画のポスターとまったく同じ絵が仕上がっています。

この工房の主は藤井冨登さん。

そうです。私が目指していたのは徹底的に技術を高めること。要は上手くなることです。そしてそれだけでなく、各館の需要に合わせて仕上げる



が、本当はさまざまな表情の空があり、色だつて一瞬ごとに違つたんですね。ですから可能な限り本物をこの目で見るようにしましたし、見られないものは写真雑誌を買い込みたくさんの写真を見ながらそのものを描くこと、その質感を表すこと、『一生命に勉強したのです』と語ります。また、これまでに自分が描いた絵はすべて、映画館に飾られてから写真を撮りに行っていきます。これは、工房の蛍光灯の光で見ると映画館で見ると、色は違つてくるのでは、色が変わるところがあるからだそうです。ここにも、仕事に妥協を許さぬ人柄が見受けられます。

ものづくり 狭山人づくり の産業



朝早くから、お茶刈りが始まります

水野の栗原治夫さん・良典さん親子は、5月中旬、1年で一番忙しい時期を迎えます。朝、若緑に輝くお茶の葉を摘み取ると、1日中工場を動かしてその日のうちに製茶します。「お茶の葉も鮮度が大切」と息子の良典さん。二番茶の終わる7月まで、そんな毎日が続きます。父の治夫さんと力を合わせて、製造から販売までの全てを行っている茶業農家です。

平成10年、お茶刈りに大型の機械が導入され、収量・品質・効率を上げることに成功しました。体力的な不安を感じていた治夫さんにも操作ができるので、今でも家族が分担、協力して作業をしています。お茶作りでは良い葉を育てることが一番大変なのだとか。有機肥料を使い、消毒の回数も減らすことで、土と茶葉をはぐくみ、命である茶園を作る...土と作物を大切にしている心が「茶どころ狭山」を支えています。

(栗原治夫さん、良典さん / 水野・茶業農家)

くらしの自治体

狭山市自治会連合会



平成15年度役員が決まりました。1年間、よろしくお願ひします。(敬称略) 問合せ市民活動支援課へ内線2512

市連合役員

会長 三ツ木住男 副会長 北田圭司・
吉田仁平 幹事長 緒方栄一 顧問片桐伸夫

各地区連合会長

入間川北田圭司 入間仲達二 堀兼
照沼善海 奥富郡司掛信夫 柏原
吉田仁平 水富緒方栄一 新狭山三
ツ木住男 狭山台井上守衛

Hello ハロー 仲間たち

Vol 262

「合唱団さきたま」



4月19日の演奏会では「バッハ・ミサ曲口短調」を歌いました

私たち合唱団さきたまは、「第九を歌う会」としてスタートしてから20年を迎え、4月19日には記念演奏会を開催しました。現在、75名の団員が毎週木曜日の夜、市民会館や中央公民館で練習しています。

混声四部でオーケストラと歌える合唱団は市内でもまれで、それがさきたまの特長です。しかし、それ以上に魅力的なのは、ハーモニーを奏でた瞬間、1人の歌声は小さくても、みんなが声を合わせると、美しく豊かなハーモニーが響きます。もちろん始めたときは、だれもが初心者で、ドイツ語など外国語の歌に難しさを感じますが、努力することで楽しさが倍に増えます。そして、コツコツと積み重ねた練習から、大きな成果と仲間同士の和が生まれるのです。

また、練習に参加できるのは、家族の理解があつてこそ。歌が大好きな気持ちと、仲間や家族に支えられ、次の目標に向かつてがんばっています。

●問合せ

鈴木邦夫さんへ

☎952 8116